

次世代のクリエイターを LEXUS が育成・支援する国際デザインコンペ  
**「LEXUS DESIGN AWARD 2018」 審査会開催**  
豊かな社会とより良い未来を創造する革新的なデザインとアイデアが  
世界 89 カ国から 1,319 作品集結  
今年も世界中で活躍する著名な審査員・メンターが審査を実施

LEXUS は、全世界の次世代を担うクリエイターを対象とした国際デザインコンペティション、「LEXUS DESIGN AWARD<sup>\*1</sup>2018」の審査会を 11 月 20 日に東京・南青山の INTERSECT BY LEXUS - TOKYO にて開催しました。今年は“CO-(共)”をテーマにデザインを募集。世界 89 カ国から 1,319 作品、日本国内からは、173 作品の応募がありました。応募作品数は日本国内だけでなく、世界においても過去最高を記録し、第 6 回を迎える当アワードは、世界的にも注目度の高いアワードへと進化を続けています。

審査会当日は、世界中で活躍する著名な審査員とメンターが集結し、直接議論を交わしながら選考を行うかたちで全応募作品の中から 40 作品にまで絞り込み、その後各メンターが 4 作品ずつのプロトタイプ制作候補を挙げ、審査員に推薦理由についてプレゼンテーションを行いました。最終的にプロトタイプ化される 4 作品は、各メンターが自身で推薦した作品のクリエイターとのセッションを通じて、決定いたします。

入賞 12 作品は来年の 1 月に発表を予定。その内、4 作品の入賞者は担当のメンターからアドバイスを受けながらプロトタイプを制作していきます。これらのプロトタイプ 4 作品は、他 8 点の入賞作品のパネルと共に、2018 年 4 月にイタリア・ミラノで開催されるミラノデザインウィーク<sup>\*2</sup>2018 の LEXUS 会場にて展示され、受賞者には、自身の作品についてのプレゼンテーションを行う機会が提供されます。また、会場での最終審査を経てプロトタイプ 4 作品の中から「LEXUS DESIGN AWARD 2018」の頂点となるグランプリ 1 作品が決定されます。



### 審査員総評

今年の応募作品は、若きデザイナーの情熱と未来への配慮が非常に強く打ち出されていました。デザインにおける多様性も年々増しており、環境危機に精緻なデザインアプローチで挑む姿勢はこれまでも数多く提案されてきましたが、今年は新たなテクノロジーを取り入れ、より建設的なアイデアに出会うことができました。様々な局面で、社会全体が急激な変化に直面している現在、今年のテーマである“CO-(共)”の探求から導かれた多くの作品を通じ、「LEXUS DESIGN AWARD 2018」は、LEXUS がこれまで信じてきた“デザインの力がより良い社会をかたちづくる”という想いを証明することになるでしょう。

審査会の様子はレクサス公式ホームページに掲載

([http://lexus.jp/brand/lexus-design/design\\_award/#schedule](http://lexus.jp/brand/lexus-design/design_award/#schedule))

\*1 豊かな社会とより良い未来を創造する革新的なデザインとアイデアを生み出す新進気鋭のクリエイターの育成・支援を目的に、LEXUS が 2013 年に創設した国際デザインコンペティション。

\*2 イタリア・ミラノで行われる世界最大のデザインエキシビション。家具メーカーやファッションブランドが独自性をアピールする様々なイベントを開催。ミラノサローネとも呼ばれる。

## ■審査員/メンタープロフィール

### 審査員:



#### デイヴィッド・アジャイ (David Adjaye) / 建築家

タンザニア生まれ。建築材の独創的な使用や高度な彫刻能力を活かし、芸術家としての感性とビジョンに富んだ建築家として高く評価されている。2000年に自身の事務所アジャイ・アソシエイツを設立。同氏が手がけたプロジェクトの中で5億4000万ドルと最大の規模を誇るスミソニアン協会国立アフリカ系米国人歴史文化博物館は、2016年秋にワシントン D.C.のナショナル・モールにオープンし、カルチャー・イベント・オブ・イヤーとしてニューヨーク・タイムズにも掲載された。2017年には、エリザベス2世によって大英帝国勲爵士(ナイト)に叙任され、TIME誌の「2017年、世界で最も影響力のある100人」のひとりとして紹介された。



#### 坂 茂 (Shigeru Ban) / 建築家

1957年東京生まれ。84年クーパー・ユニオン建築学部(ニューヨーク)を卒業。85年、坂茂建築設計を設立。95年から国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)コンサルタント、同時に災害支援活動団体 ボランティア・アーキテクト・ネットワーク(VAN)設立。主な作品に、「ポンピドー・センター・メス」、「大分県立美術館」などがある。これまでに、フランス建築アカデミー ゴールドメダル(2004)、日本建築学会賞作品部門(2009)、フランス国家功労勲章オフィシエ(2010)、オーギュスト・ペレ賞(2011)、芸術選奨文化科学大臣賞(2012)、フランス芸術文化勲章コマンドゥール(2014)、プリツカー建築賞(2014)、JIA日本建築大賞(2016)など数々の賞を受賞。2015年9月より慶応義塾大学環境情報学部特別招聘教授に着任。



#### パオラ・アントネリ (Paola Antonelli) / MoMA シニアキュレーター

1994年よりニューヨーク近代美術館(MoMA)勤務。現在、研究開発部門責任者であると同時に、建築、デザイン部門のシニアキュレーター。展覧会のキュレーション、執筆、講演会など世界中で活躍。カリフォルニア大学ロサンゼルス校、ハーバード大学院デザイン科、ニューヨークのデザインスクール「MFA Products of Design」で教鞭をとる。デザインが世界に好影響を与えることが普遍的な理解として浸透することを目的に活動。デザインや建築、科学技術の領域も含め日々の生活の中でデザインが与える影響を調査している。近況では世界を変えた111の衣装「Design Bites,」を開催。



#### バーギット・ローマン (Birgit Lohmann) / デザインブーム編集長

ハンブルグ生まれ。工業デザインをフィレンツェで学び、1987年よりミラノを拠点に活動。イタリアを代表する建築家やデザイナーと共にデザイン、製品開発を行う。イタリア司法省や国際的なオークションハウスで働くと共に、世界中の著名大学で工業デザインの講演を行っている。1999年に designboom を共同創設し、現在は編集長、教育プログラム代表、エキシビションキュレーターとして活動。



#### アリス・ローソーン (Alice Rawsthorn) / デザイン評論家

ニューヨーク・タイムズで長年執筆を続けるデザイン評論家。毎週発信のデザイン・コラムは世界中のメディアで掲載。TEDや世界経済フォーラムなどの世界的なイベントでデザインについて講演を行う。ロンドンを拠点に活動しホワイト・チャペル・ギャラリー、マイケル・クラーク舞踊団の主任評議員、チャイセンハール・ギャラリーの主任評議員を務める。近著はデザインが私達の生活に与える影響についての“Hello World: Where Design Meets Life”(ハーミッシュ・ハミルトン刊)、また、現代のデザイン概論として“A Field Guide to Design”の出版を2018年に予定している。



#### 澤 良宏 (Yoshihiro Sawa) / Lexus International President

京都工芸繊維大学意匠工芸学科卒業。1980年入社。カローラなどの小型車外形デザインを担当。米国駐在、内外装デザインを経て、異色のデザイナー出身チーフエンジニアとして、アイゴの開発を担当し、2016年には常務役員、2017年4月にLexus International Presidentに就任。

メンター：



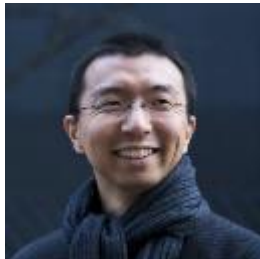
**フォルマファンタズマ (Formafantasma) / デザイナー**

フォルマファンタズマ (Formafantasma) は、オランダ・アムステルダムに拠点を置くイタリア出身デザイナーのアンドレア・トリマルキ (Andrea Trimarchi) とシモーネ・ファルジン (Simone Farresin) によるデザインチーム。主にマテリアルに関する実験を行ないながら作品を制作している。

フォルマファンタズマは、伝統文化と地域文化との関係、サステナビリティへのクリティカルなアプローチ、そして文化の源泉としてのオブジェクトの重要性などを常に探求している。クラフトと産業、オブジェクトとユーザーを繋ぐことで、フォルマファンタズマは自身の実験的取り組みと幅広いデザイン産業をリンクさせ、世界中の様々な著名ブランドからのオファーを数多く受けている。彼らの作品は、国際的に高い評価を受けており、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) やロンドンのヴィクトリア&アルバート博物館といった主要美術館のパーマネントコレクションとして所蔵されている。

**藤本 壮介 (Sou Fujimoto) / 建築家**

1971年 北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年 藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年 フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞、2015年 パリ・サクレ・エコール・ポリテクニク・ラーニングセンター国際設計競技最優秀賞につき、2016年 Réinventer Paris 国際設計競技ポルトマイヨ・パーシング地区最優秀賞を受賞。主な作品に、ロンドンのサーペンタイン・ギャラリー・パビリオン 2013 (2013年)、House NA (2011年)、武蔵野美術大学図書館 (2010年)、House N (2008年) 等がある。



(c) David Vintiner

**リンゼイ・アデルマン (Lindsey Adelman) / デザイナー**

リンゼイ・アデルマン (Lindsey Adelman) はチューブやジョイントを組み合わせた、ユニークで美しいシャンデリアを製作するデザイナー。その作品は、世界中のデザイン誌に掲載され、人気を集めている。幼少期からものづくりに深い関心をよせており、インダストリアルデザインとの出会いがきっかけでロードアイランドスクールオブデザイン (RISD) に入学。その情熱を存分に発揮し、現在では自身の名を冠したスタジオをニューヨークとロサンゼルスにもつ。拠点とする二つのスタジオからは、光を操り、感情に訴えつつ物理的に空間に変革をもたらす照明器具が生み出されている。それぞれの歴史と意味が染み込んだ照明器具は、気取らずに周りの世界に色と、質感と、奥行きを与えている。



by Hans Neumann

**ジェシカ・ウォルシュ (Jessica Walsh) / デザイナー**

デザイナー、アートディレクター、及びニューヨークを拠点とするデザイン事務所サグマイスター&ウォルシュのパートナー。世界中のクリエイティブ系カンファレンスや大学でデザインに関する講演を行い、ニューヨークのスクールオブヴィジュアルアーツで教鞭を取っている。作品は、Type Director's Club、Art Director's Club、SPD、Print、New York Festivals、D&AD、TDC Tokyo、そして Graphis など、世界的に有名な数々のデザイン賞を受賞している。フォーブス誌より「未来をデザインするトップクリエイター30 アンダー30」に、アドエイジ誌より「ビジュアルクリエイターTop 10」に選出。作品は、多数の本や雑誌に掲載。クライアントに、ニューヨーク近代美術館 (MoMA)、ユダヤ博物館、Jay-Z、スナップチャット、バーニーズ、ニューヨーク・タイムズ、Levi's、Adobe などを持つ。本として出版されたブログ「40 Days of Dating」は、1000万人以上の読者を集め、現在ワーナー・ブラザーズが映画化に着手している。



《本件に関するお問い合わせ先》

LEXUS DESIGN AWARD 2018 審査会 PR 事務局

担当：田井・堀井・志和 Tel：03-5572-6071 Fax：03-5572-6075 mail：mdw2018@vectorinc.co.jp